

第4回 小腸癌取扱い規約作成委員会議事録

委員長 橋口陽二郎（帝京大学医学部外科学講座）
日時 第99回大腸癌研究会・2023年7月6日（木） 14時00分～15時00分
場所 尼崎総合文化センター2F

参加者

会場参加：橋口陽二郎（帝京大学）、田中信治（JA尾道総合病院）、野澤宏彰（東京大学）、大宮直木（藤田医科大学）、斎藤豊（国立がんセンター中央病院）、絹笠祐介（東京医科歯科大学）、金光幸秀（国立がんセンター中央病院）、高見沢康之（国立がんセンター中央病院）、松田圭二（帝京大学）、加藤健志（大阪医療センター）、杉本亮（岩手医科大学）、菅井有（南東北病院）、上杉憲幸（南東北病院）、八尾隆史（順天堂大学）、川内隆幸（防衛医科大学校）、須並英二（杏林大学）、吉敷智和（杏林大学）、門松雄一郎（順天堂大学）、福田純也（久留米大学）、落合淳志（東京理科大）、新井富生（東京都健康長寿医療センター）、金子明央（京都府立医大）、前田清（大阪公立大学）、豊島明（日赤医療センター）、杉野英明（新潟大学臨床病理）、須藤剛（山形県立中央病院）、深瀬正彦（山形県立中央病院）、森戸隆之（山形県立中央病院）、小池雅彦（札幌北辰病院）、落合大樹（東京大学）、山城直嗣（浦添総合病院）、佐村博範（浦添総合病院）、筒井康博（ロシュダイアグノスティックス）

Web参加：大塚和朗（東京医科歯科大）、澤田亮一（東京慈恵医大）、山下賢（広島大学）

説明

橋口：小腸癌取扱い規約は、大腸癌取扱い規約第9版にそって作っている。今後は小腸癌治療ガイドラインを作成することを視野に入れている。

小腸癌の肉眼型分類の典型内視鏡写真の掲載について

→写真が少ないため、写真は掲載しないこととし、図を載せることにする。

リンパ節の群分類と領域リンパ節の記載法について

→空腸動脈系と回腸動脈系と回結腸動脈の3つに分ける

到達法について

→『経腹（腹腔鏡，ロボット支援下，開腹，）』，その他』として、ロボットを入

れておく。

小腸部分切除、回腸部分切除、空腸部分切除、空腸回腸部分切除の呼称について

→小腸部分切除でまとめてよい。病変は空腸か回腸を書く。「回盲部切除術，結腸右半切除術以外の小腸切除はすべて小腸部分切除である」という注は省略する

Colonic muco-submucosal elongated polyp の記載について

→少ないので掲載しない。

小腸 T1 癌について浸潤距離を測定して記載するか。

→大腸癌取扱い規約に準じて粘膜下層浸潤を測定してもらう。図はいれないことにする。

『漿膜を有しない部位で固有筋層を越えて浸潤する癌』については、小腸はすべて漿膜を有するとして記載を削除してよいか。

→削除する

病理領域の組織図譜について

→写真掲載については病理医で検討することになった。

小腸癌取扱い規約単独でなく、大腸癌・小腸癌取扱い規約としてはどうかという意見あり。

→まずは小腸癌取扱い規約としてまとめ、ホームページに載せることなどを考えている。化学療法のこともあり、小腸癌治療ガイドラインを早く作る必要がある。